

在日コリアンに対するインターネット上の差別

2016/5/17 高史明

インターネット上の差別

- ・特に2002年以降、インターネット上では在日コリアンに対する差別的な発言が増加した。
 - ・契機
 - 日韓共催ワールドカップでのサポーター間の確執
 - 小泉元首相の訪朝と拉致問題の実態の発覚
- ・韓流ブーム（2003年ごろ～）の裏側
 - ・「マンガ嫌韓流」（2005年）の大ヒット（シリーズ累計100万部）
- ・「在日特権を許さない市民の会」（2007～）などの排外主義団体の活動
- ・メディアや社会の関心は2013年になって初めて向けられるようになる。

インターネットとレイシズムの計量的研究

・Twitterでの投稿の計量テキスト分析

- ・コリアン全般についての日本語の投稿を収集、分析
- ・投稿の70%がコリアンに対してネガティブ、17%がポジティブ
- ・極端に投稿数が多くフォロワー（講読者）数も多い差別的なユーザーの存在
- ・2つのレイシズムがそれぞれ10%超の投稿に表れている
 - 古典的レイシズム「コリアンは（道徳的／能力的に）劣っている」
 - 現代的レイシズム「（在日）コリアンは様々な特権を持っている」
- ・その他の主要なテーマ
 - 歴史問題
 - マスコミへの不信感
 - 「反日的」「売国的」な存在
 - 「コリアンにとって不都合な真実が隠されている」 など。

・インターネットの使用時間とレイシズムの強さの関係についての質問紙調査

- ・大学生を対象とした質問紙調査を複数回実施
- ・主要な知見
 - ・インターネットの使用時間が長いほど在日コリアンに対するレイシズムが強い
 - ・サイト・サービス別の使用時間では、匿名掲示板の“2ちゃんねる”や“2ちゃんねるまとめブログ”の使用が影響。